

Text/Atsushi TAMADA CG/Kenta KITAGAWA (ldk) , Soma YOKOI



デイトナが提案する  
新しい建築のカタチ

**DH x L**  
DAYTONA HOUSE x LDK

Monthly  
Theme

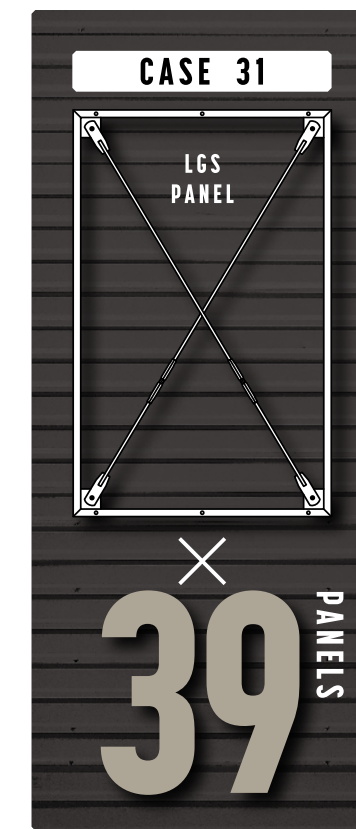
# 八ヶ岳を一望する傾斜地に建つ 趣味人にとつての終の棲家

映画監督の小津安二郎の別荘もあつた蓼科の八ヶ岳が一望の傾斜地に、高床式でさりげなく建つガレージ付きフラットハウス。  
大自然で、終の棲家として豊かに暮らしたい人へのひとつの答えです。

国宝の土偶が、同じ場所から二体も発掘されるほど、縄文人の人口密度が高かつた長野県の諏訪・茅野エリア。そこから山を少し登ったところに八ヶ岳がさらにはっきり一望できる別荘地、蓼科があります。

の祝詞に言う「うましところ」。エネルギーに満ち溢れた場所です。古代人も大好きだったこの場所に、現在の日本人なミッドセンチュリースタイルの住まいを計画しています。

はほとんど掘削をしません。当然コストや時間も大幅に節約できます。多雪地方で平たい屋根でも平気なのは、屋根材の下に電気式の融雪シートを敷いているから。故に心配ご無用です。更にそれによって、庇が大きく張り出して、自然との一体感を演出した独特のリビング空間が出来るからです。オリンピック以降、本格的になると言われる地方移住計画。その終の棲家として提案したいのが、このさりげなくカッコいい、フラットハウスなのです。



## What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。「柱」と「梁」と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテストも持ち味です。

[www.daytona-house.com](http://www.daytona-house.com)

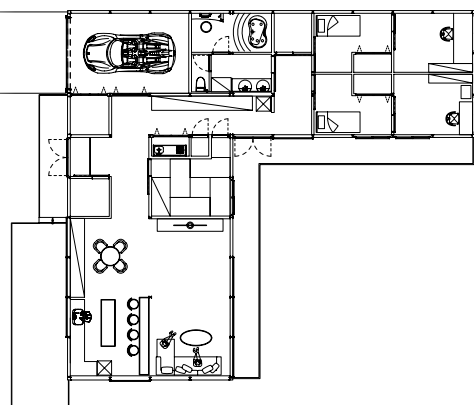
● INFORMATION  
**LDKinc.**

代表:玉田敦士  
[www.ldk.co.jp](http://www.ldk.co.jp)  
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社LDK inc. 建築設計はもろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

## FLOOR PLAN

建物手前が道路のある山側です。道路には段差があり、それを解消するため高床式のアプローチを採用しました。反対側が谷側。夫婦それぞれの仕事部屋を持った寝室。大きなリビングルームも、雄大な大自然のエネルギーを貰い受けるための配置に。八ヶ岳山麓は、最近東京からの移住者が特に多くなってきた地域。交通の便が発想を自由してくれますね。



八ヶ岳が一望できるリビングルーム。融雪シートを使用したフラットルーフがミッドセンチュリーデザインの底の直線的なラインを可能にします。これは天井がそのままガラス一枚隔って伸びていく「スルー」と言う作法。張り出したデッキテラスも大自然に溶け込むための中間領域なのです。

Living

断熱材に覆われた外壁を持つ、居住性の良いガレージ空間。外観のアクセントにもなっている高い天井は、ウィンタースポーツのギア類の格納にも最適です。この場所は昔、小津安二郎の別荘があったころ、日記で馬で麓に行った記述もある立地。今や利便性も終の棲家の絶対条件です。

Garage